



| | | | | | |
|-------|---------------------|------|---------|----|------|
| 学科・専攻 | 情報システム工学 | 学籍番号 | 1815008 | 氏名 | 安藤祐斗 |
| 題目 | ディープラーニングの分散処理を実行する | | | | |

報告日までの取り組み

| | | |
|-----------|----------|---|
| PDCA サイクル | 設定目標 (P) | A-3 台以上の PC (マスター 1, スレイブ 2) で BIGDL を使い, ディープラーニングの例を実行することを目的としていた. B-ディープラーニングの分散処理によって役立つことを考える. |
| | 取組内容 (D) | A-lenovo と他 3 台の spark と BIGDL の環境設定を行った. B-論文, ウェブサイトで調べる. |
| | 課題整理 (C) | A-lenovo だけディープラーニングの例の実行ができていない. B-ディープラーニングにおける学習速度が向上すること以外にわからなかった. まだ調べ不足だと思った |
| | 改善方策 (A) | A-いくつかのコア, メモリを PC に割り当てるかといった分散処理関係の設定の見直しをする. B-分散処理とディープラーニングに関する研究論文を調べる. 英語のものもできるだけ読む. |

報告日

| | | |
|--------------------|---------------|--|
| やりたいこととより, やるべきことを | コメント (出席者) | |
| | 備忘録 (自分) | |